

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 3月 29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072600446
法人名	有限会社 たじま
事業所名	グループホーム かやの木
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字中之条 (電 話) 0279-75-3350

評価機関名	はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミュン100 1-B
訪問調査日	平成 20年 3月 12日

## 【情報提供票より】(20年2月27日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	10人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(2月27日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1		名	要介護2	6	名
要介護3	8	名	要介護4	4	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	歳	最低	歳	最高

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 寿山会 田島病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに隣接している系列病院との連携が密にとられているので、医療面において本人は勿論家族にとっては安心の出来る場となっている。事業所において定期的に開催される勉強会等には病院関係者や看護師等も参加して、共にホームの質の向上に努めており、夜勤時には必ず担当職員が系列病院の看護師に挨拶をする等、良好な関係作りを心掛けている。一日の流れの中で、基本的な食事の時間は決められているが、多くの時間は利用者の思いや意向を大切にされた支援に取り組んでいる。このことは訪問時の利用者の言動や表情から汲み取ることが出来た。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点であった「時計の設置場所」「介護計画の家族の確認」「身体拘束のないケアの重要事項説明書に明記」「外部研修の充実」等については全職員で話し合い改善に取り組んだ。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は自己評価表を全職員に配布し、それぞれが記入した内容に基づき管理者と職員が話し合って作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現在、運営推進会議は4ヶ月に1回開催されており、内容は事業所からの説明や行事の案内等で、メンバーからの意見等は特に出されていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に利用者の日頃の様子や健康状態等を話しながら、家族が気軽に話しの出来る雰囲気作りを心がけて、家族の苦情・意見・要望などを聞くようになっている。ホームの苦情相談担当者はいつでも気軽に対応出来る体制が出来ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連事項:外部3) 自治会には加入していないが、町の広報誌により情報を得ながら、地域の行事である「どんど焼き」や「鳥追い祭り」等に積極的に参加したり、出来るだけ地元の商店で買物をするようにして、地域の人との交流の機会を作るように努めている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に策定したホーム独自の理念を掲げており、「地域密着型サービスとしての役目を果たす事」を含めた新たな理念の見直しはしていない。	○	地域密着型サービスの役割を理解し、「地域の中で交流を持ちながら生活する事」を意識した理念を既存の理念に加える事を検討して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕2回の申し送り時や職員会議等で常に理念に触れ、管理者・職員は共に確かめ合いながら、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在自治会には加入していないが、町の広報誌により情報を得ながら、地域で行なわれる「どんど焼き」や「鳥追い祭り」などの行事に積極的に参加したり、出来るだけ地元の商店で買物をするなど、地域の人との交流の機会を作るように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえて、全職員で話し合いの機会を持ち、改善に向けて取り組んだ。今回の自己評価は職員全員に自己評価表を配布し、それぞれが記入した内容に基づいて管理者と職員が話し合っ作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1回開催している。会議の内容は事業所の説明や行事の見学などで、メンバーからの意見や希望は特に聞かれない。現在のメンバーに区長や民生委員は入っていない。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮していく事を支えるためにも、運営推進会議のメンバーに地域住民代表(区長や民生委員等)の参加の意味は大きいと思われるので、参加を呼びかけるための努力が望まれる。又会議の開催を2ヵ月に1回の方向で検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の開催により役場担当者とも馴染みの関係が出来、会議以外でも相談等のため、役場に向く機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態などについてお知らせしている。来訪の少ない方には電話等にて報告している。以前お便りの発行はしていたが現在はしていない。	○	家族の来訪時の報告に加えて、家族との連携をより深めるために、利用者の日頃の暮らしぶり・行事の時の様子やスナップ写真・職員の異動等についてお知らせするホームページの再発行を期待したい。又、お便りに利用者個別のコメントを記することも検討して欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者を明記している。来訪時に家族と職員が気軽に話の出来る関係が出来ており、家族の意見を聞き、サービスの質の向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるようにしている。新しい職員に対しては、対応についてのマニュアルを説明し、先輩職員と共に利用者の支援にあたり、実践の場で学ぶ機会を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修として毎週1回、約1時間、法人代表者や関係医療機関の看護師等を交えて勉強会を開催している。又、法人経営の病院が開催する研修会が月に1回あり参加している。事業所外の研修にも交替で参加し、ミーティング等で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、協議会主催の研修会や交換研修に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。又、同町内にあるグループホームの管理者がお互いの情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学してもらい、納得しての入居をお願いしている。病院からの入居希望の場合は病院からの情報を、在宅からの場合は家族等からの情報(特に利用者の好き・嫌い等)を参考にして対応している。又、法人経営の高齢者住宅からの希望の場合は、グループホームで過ごす時間を持ってもらい、場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側と言う関係でなく、共に生活していると言う認識のもとに、畑仕事・料理の仕方・手提げ袋の作り方・昔の行事の話等、日々の生活の中で教えてもらう場面が見られる。利用者から「今日は綺麗だね」「ありがとう」の言葉をかけられることもあり、共に喜び、支えあう関係が出来ている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などからその真意を推し測り、それとなく確認している。意思疎通の困難な方の場合は家族や関係者から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の利用者の状態や家族等の要望等を基に、代表者を含めた月に1回開催のミーティングにおいて、意見交換やモニタリングをしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しをしているが、状態が変化した際は期間内であっても随時検討して、見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態により眼科や歯科等の受診を家族に代わり通院の支援をしたり、利用者の要望で買物等に同行するなど柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医となっており、現在、利用者全員の協力医がかかりつけ医である。法人経営の病院が協力医のため、相互の連携も円滑で、適切な医療を受けられるような体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応についての話し合いはしているが、終末期に向けた方針については関係者間で話し合いはしていない。	○	本人・家族が安心して利用するためにも、重度化や終末期の対応や方針について、関係者全体で話し合っ、支援の内容を共有する事が望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議や日々の支援の中でプライバシーの確保について話し合っている。利用者に対する態度・言葉遣い・介助等については特に配慮しながら対応している。利用者の居室入り口には名札でなく写真を掲示するなどの配慮も見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に食事の時間は決められているが、利用者本位を心がけ、その日、その時の気持ちを尊重し、出来るだけ個別性のある支援をしており、散歩や買物など柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は食材の買物と一緒に出かけられることもあり、食事の準備や後片付けも一緒に行なっている。食事時は同じテーブルについて、会話を楽しみながらさりげない支援を行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝の内にいつでも入浴の出来る準備をしておき、午前・午後と利用者の希望に添った入浴の支援を行なっている。入浴を嫌がる方にはタイミングを見ながら入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い・掃除・洗濯物たたみ・草花の手入れ・草とり・野菜の収穫など、利用者の経験や能力を発揮できる場面を作っている。地域の行事の「鳥追い祭り」に出かけたり、近くの公園にお弁当を持って出かける等、利用者と相談しながら楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態に合わせて近くの公園に出かけたり、食材の購入に利用者も同行する等、出来るだけ戸外に出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況の把握と、職員の見守りなど安全面に配慮しながら玄関の鍵はかけていない。2階の利用者に対してはエレベーターの開閉の所にやさしい音のチャイムをつけて、階下でも利用者の乗り降りをキャッチ出来るような工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、法人が中心になって防災訓練を行なって、消火器等の使い方の説明をしている。管理者は防火管理責任者の研修を受講している。スプリンクラーが設置されている。地域の人々の協力体制は出来ていない。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域住民や消防署等の協力が得られるように、地元の自治会や運営推進会議等で協力を呼び掛け、地域の人達の協力体制について検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人経営の病院の献立を参考に、利用者の嗜好等や栄養のバランスを考えた食事を提供している。食事や水分の摂取状況も毎日にチェックして、記録に残し全職員が共有しながら支援にあたっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテーブルと椅子、ソファ、畳のコーナーには炬燵がある等、利用者一人ひとりがゆっくりと寛げる場所の工夫がなされている。ホール内には季節を感じさせる草花、利用者の作った俳句や行事の絵などが掲示され、台所からは食事の準備の音や匂いが漂い、自分たちの生活の場であると実感出来るような配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた調度品・タンス・テレビ・家族の写真・化粧品などが持ち込まれており、利用者それぞれが安心して生活出来るように、利用者一人ひとりの気持ちに沿った居室作りの工夫が見られる。		